



「Communication」を通じて日本社会の持続性を保つために。

情報流通行政局郵政行政部企画課
貯金保険室課長補佐

中野 裕登 NAKANO Hironori

平成 29年 4月 総務省採用
情報流通行政局地域通信振興課
平成 30年 4月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第二課
令和 2年 7月 同 情報流通行政局放送政策課調整係長
令和 3年 7月 内閣官房副長官補付
令和 4年 7月 あざぎり町デジタル政策審議監
令和 6年 7月 現職

行政官として「当たり前」を支える

突然ですが、私は、行政官の使命の1つには、皆さんが日々過ごす社会における「当たり前」を「当たり前」として持続させること、かっこよく言えば、社会秩序を維持することであると考えています。社会秩序が崩れ、我が国における社会活動、経済活動が大きく乱れないように、霞ヶ関では、省庁を問わず、多くの同僚がこの使命を果たすためにそれぞれの所掌のなかで業務に励んでいます。

ただ、社会における「当たり前」というものは、時代や我が国を取り巻く環境、技術の発達などの複数のパラメーターによって、絶えず複雑に変化しつづけるものです。中でも総務省が所掌する情報通信の世界は、特に進歩や変化が早い業界であると言われており、その分、「当たり前」が変容するスピードも速いものと思われます。少し前までは、友人や家族との日常的なコミュニケーションもメールが主流でしたが、SNSの登場によりチャット等に切り替わりました。こうした「当たり前」の変化・行く末を見極め、時に法令などの制度や運用を見直し、時に社会が進むべき道を示すことが、我々、総務省の職員には広く求められています。

郵政行政はいかにして「当たり前」を持続させられるか

現在、私は、郵政行政に関わる業務に携わっています。特に「郵政行政」と切っても切り離せない存在が、我が国に約2万4千局存在する「郵便局」です。皆さんご存知のとおり、郵便局は単に郵便物を出すことができる場所にとどまらず、貯金、投資信託、簡易生命保険などの多くの金融サービスを広く提供する役割を担っているほか、既に一部の郵便局において、買い物支援やオンライン診療など多様なサービスの提供が試みられています。人口減少が進む我が国においては、地域に根ざした郵便局ネットワークの活用を検討・実践していくことが、地域内のコミュニケーションを持続させることであり、ひいては「当たり前」を持続させることにつながるものと考えています。

求む、多様な感性

このほかにも総務省には、文字通り「国民各層」が日常的に触れる制度や技術に関する業務で満ちています。実際に仕事をしていても「このサービス使ったことあるけど○○だよなあ」と自らの消費者

としての経験により、業務の解像度が高くなることも少なくありませんし、若手の感性もその世代を代表するもののひとつとして、大いに尊重されます。

ぜひ、多様な感性を反映させた「当たり前」を追求するために、お力をお貸しいただける方をお待ちしています。



熊本県あざぎり町出向時に幼少期からの夢であったラジオ出演

松山にて

総務省の業務では、実際に各地域に赴き、地域の事業者・関係者と意見交換をする機会がままあります。松山をそんな出張で訪れる機会がありました。松山は、夏目漱石が教師として赴任した地です。漱石は草枕の一節に「人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向う三軒両隣りにちちらするただの人である。」と書いています。行政の仕事は、「ただの人」が作る人の世の、未来の設計に「ただの人」として参加できることが魅力だと思います。

入省1年目、スマートフォンやインターネット等の電気通信サービスにおける消費者保護に関わる部署に配属となり、制度整備の検討や制度運用を担当しました。情報通信技術は日々飛躍的に進歩していますが、新たな技術を社会に浸透させるためには、それを受け入れるためのルール整備が欠かせません。検討段階から実際の運用まで携わることで、自分が関わった制度改革が、消費者トラブルの解決に役立つ過程を実際に目にすることができる非常に貴重な機会でした。消費者保護の分野は、日常生活で感じる違和感が政策立案に役立つことが多いです。元々私は情報通信技術に詳しい訳では

ありませんでしたが、経験を通じて知識を積み上げることの大切さはもちろん、日々生活する一人の人間としての感覚を研ぎ澄ますことの重要性を感じることができました。

総務省を目指すあなたへ

入省して3年が経ち、現在はテレビやラジオといった放送制度の検討に関する業務を担当しています。放送を巡る環境は、地域の人口減少やブロードバンド網の全国的な普及等により、急速に変化しています。地上デジタル放送への移行から約15年が経過し、放送の技術的な特性が相対的なものとなる中で、放送の社会的な役割を確保するため、その将来像について議論を深めていく必要があります。

私が総務省の門を叩いたのは、専門的な知見があった訳ではないものの、時代の要請に応じた情報通信技術の社会発展に貢献したいという思いからでした。この先を見据え、技術の進展に対応し、かつ、社会的要請に応じたルール作りに貢献できることは、総務省ならではのやりがいだと思っています。



大阪にて



向う三軒両隣りから未来を考える

情報流通行政局放送政策課推進係長

千葉 阿月 CHIBA Aduki

令和 4年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課
令和 5年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
消費者契約適正化推進室
令和 6年 7月 現職